

FC東京に法務大臣感謝状が送られました。平成14年から続く“社会を明るくする運動”中学生サッカー教室は東京フットボールクラブ(株)FC東京のご協力のもと、毎年7月に開催されています。このたび、この長年の貢献に対し、法務大臣感謝状が贈られました。(1月20日市報ちようふより)



地区新年会
阿久根謙司FC東京社長と土屋地区会長



前列一番右 大金直樹FC東京常務取締役
中列一番右 調布市役所地域福祉係小坂芳美さん

調布 狛江 保護司会だより

NO.30

発行責任者

調布狛江保護司会
会長 土屋 邦子



皆様に感謝

調布・狛江地区保護司会

会長 土屋 邦子

平成五年五月、当地区の理事を拝命し、二十年の年月が過ぎ、この度退任することに致しました。当時の保護司会は、専門部制もなく、保護司が顔を合わせるのは、年三回の地域別研修、総会、新年会など数えるほどでした。地域に保護司の存在を示す機会もなく、寧ろ、存在は秘匿されるべきものとされていきました。

保護司は、観察官と対象者という限られた範囲での活動で、お互いに事例や悩みについて話し合う機会は稀でした。

平成八年に府中分區が独立し、調布・狛江の二分區での活動になり、当時、観察所が提唱した「社会参加活動」をいち早く取り入れ、それに伴い部会制も確立し、保護司会独自の活動がスタートしたのです。

平成九年から始まった「深大寺社会参加活動」は、今年で十七回目を数えます。当初は、集団で対象者を活動させることの是非や、警察の協力などに異議がでしたが、保護司会、更生保護女性会、BBSが連携し、地域に理解も得られ、定着しました。

平成十三年から「神代農場社会参加活動」、社会を明るくする運動強調月間の七月にスタートした「中学生サッカー教室」は当地区の三大イベントになりました。この活動を通じて保護司同士の連帯感、協調性が生まれ、その集大成が二十三年度の「東京都更生保護事業関係者顕彰式典」の成功に繋がったと思います。無我夢中で走ってきた二十年でしたが、皆様のおかげで、充実した、月日を送ることが出来ました。

これからは、当地区も退任を迎える保護司が増加します。皆様のご協力で新任者の確保が出来れば、と願っております。私も任期のある限り皆様と一緒に当地区のために頑張りたいと思っております。

「ありがとうございました」

平成二十四年第七ブロック保護司組織 運営連絡協議会に参加して

川合 章雄

十月四日 北多摩北地区の東村山市民センターで開催され、当地区から六名の保護司が出席しました。

当日の協議テーマについては、「保護司候補者の確保と保護司の育成」テーマ一については「地域との連携強化」であり、各地区から基調報告がありました。テーマ二については、第七ブロックの充足率は全体的に全国の平均を下回り、保護司候補者の確保が課題であります。現実に、犯罪を犯した人が自宅に来ることに、拒否反応が強く、保護司制度の理解が得られない状況の中、大変苦勞の多い話を伺いました。



新任保護司ケアや育成に係る方策は、ベテラン保護司と気軽に相談できる場の確保が必要と思われます。次にテーマ二については、面接場所の確保、その他情報発信基地として、各分区毎にサポートセンターの設置が強く望まれる所ではありますが、現実にはなかなか厳しいとのこと。

協議会に参加して身近な問題と受け止め、大変勉強になりました。

十月二日 地区保護司会自主研修 「赦す」という視点 〜自主研修「刑務所の経済学」中島隆信氏講演報告〜

金子 日出澄

「刑務所の経済学」というテーマから、運営コストのお話しを連想しましたが、実際は経済学的視点から日本の司法制度や更生保護を考える非常に奥の深い講演でした。

その根本にある「失敗を赦す」という考え方がとても印象に残りました。重犯罪者を厳罰に処せば一件落着か？ 否、罰則強化による収容コスト、犯罪者の社会復帰の遅れによる労働力の機会損失という二重のコスト増を生むばかりか、結果的に犯罪者を社会から排除するしくみが構築され、社会不適応者の増加につながると言います。

「赦す」とは、被害者やその近親者に寛容さを求めるものではありません。当事者にとっては到底受入れ難く、その思いは消えるものではないのは当然です。この場合の「赦す」とは社会全体としての考え方を示すものであり、刑事政策を考える

上での基本的スタンスの転換を促すものであると言えます。受刑者が社会から排除された存在になり、刑務所が隔離施設となり得る現状は、果たして社会全体のしくみとして合理的と言えるのか否か、根源的な問題を提起されていました。

「赦し」とは「受入れること」であり、犯罪者を排除するのではなく、社会に取り込んで活用すること。これが経済学的視点から見ると合理的であるという考え方でした。

犯罪者に重罰を与えるのか、矯正を目指すのか、失敗を排除するのか、赦すのか、この基本スタンスの違いは更生保護を考える上でも非常に大切なことであると思われました。さらに、このことは会社や様々な組織・団体、人の集まりで形成される全てのものの運営・経営面でも、同じく大切な観点であると考えさせられた問題でした。

新たな気づきを頂きました中島隆信先生の貴重なご講演に心から感謝申し上げます。



第二回調布分区自主研修会

林田 堯舜

今回の調布分区自主研修会では、私達のお仲間でもあります小野保護司、柿澤保護司がご講話下さいました。両氏は、法務省の要職に就かれ、その豊富な知識や経験等、貴重なお話を伺う事が出来ました。

柿澤さんのお話は、受刑者の処遇の仕組みやその流れ、また現状などを資料とともに分かりやすく説明して下さいました。また、保護司となられたからの体験や思いなど幅広くお話し頂きました。

小野さんのお話は、受刑者に直に接する立場から、今までの中で特に印象に残る体験として、故田中角栄氏のお話をされました。イメージとは違い、気さくに誰とでも親しく接して下さいる方だという事で、私達には知られていない本来の人物に触れた貴重な体験を伺いました。



小野保護司

調布分区自主研修会

濱中 佳朗

二月二十五日、調布分区の自主研修会が教育会館にて、調布警察署の福島少年係長・鴨志田分区会長・土屋地区会長の三名を講師に開催された。当日は四十三名の参加で、過去最高の参加者数となった。

福島氏は二〇年以上、渋谷等少年犯罪が多い地域で勤務されてきた。現在の犯罪傾向を踏まえ、暴走族やチーマーと呼ばれる子供たちが、暴力団との関係の中で一般社会から追いやられていく様子や、様々な事情により夜の都会で働くことを余儀なくされている少年・少女について、話された。雑誌等ではセンサーショナルに扱われることが多いが、こうした子供たちの中には自殺を試みる者も少なくないとのことである。人生における最大の喜びの一つである生命の誕生に、為すすべなく



柿澤保護司

土屋地区会長



立ち尽くす少女を目の前にし、また暴力団を含め、大人との関わりの中でしか起こりえない犯罪に引き込まれていく姿に、心を痛めておられた。鴨志田分区会長も同様に、子供たちの病んでいく心と向かい合い、家庭

を含めて係わってこられた自身の経験を話された。保護司活動に大いに参考となり、責任の重さを改めて感じた。

土屋地区会長はこうした保護司活動の啓蒙として、立教大学に、特別講師として招かれた。学生の様子を中心に話され、学生との対話を通じ、保護司活動も時代とともに、変えるべきところは、しっかりと見直すべきであろうと提言された。質疑では、提言内容を含め活発な意見交換がなされ、盛会となった。

福島少年課長



鴨志田分区会長



深大寺における社会参加活動について

地域活動部長 宮内 弘

十一月二十五日(日)午前九時三十分より午後二時三十分まで実施しました。

朝はかなり冷えこみましたが、素晴らしい好天に恵まれ、作業は順調に進みました。

境内は観光客が多く、七五三のお祝いの参拝者で賑わっていました。調布市長と狛江市市長、観察所関係を始め参加者は一一一名でした。



深大寺 張堂住職

初めての不動堂清掃

開山堂・不動堂責任者 小室 静了

天候に恵まれ恒例の深大寺社会参加活動に参加しました。

今年から今まで存在すら知らなかった、東の外れにある不動堂の清掃もすることになりました。

今まで、手付かずの感じで埃も凄い所でした。昨年までは殆ど同じメンバーで、開山堂の清掃をしていきましたが、今年は二箇所の担当ということになりました。今年はどうか気掛かりでした。メンバー全員が増えた仕事も含めて、時間内に終わりたいと云う気持ちで、一生懸命に取り組み、早い段階で開山堂清掃を終り、不動堂へ移ることができました。不動堂は外回りの清掃や硝子窓を外して洗う作業もあり大掛かりな事となるのではないかと、不安でしたが、元三大師堂の清掃を終了した方が手伝いにこられて、臨機応変な働きによって気づかないうちに沢山の清掃が終わっていました。順調に作業終了して、安心したこともあり、いつも以上に昼食が美味しく感じました。

初めての開山堂、不動堂の責任者として分らないことばかりでしたが、皆様のお力添えによって無事に終了できました。ことをお礼申し上げます。

参加者の感想



①社会参加活動に出席した保護司の感想(抜粋)

*参加している全員が楽しく活動しているのを感じました。

*時間に余裕があり過ぎと感じ、その余った時間に何かできればと感じました。

*対象者が少ないのが残念。

*天気に恵まれ、気持ちよい日に活動できました。ことをまずは感謝いたします。対象者を始め各方面の関係者が集い、心ひとつに仏様と向いあい仏具を研く姿は素晴らしいものでした。



不動堂

②対象者の様子はいかがでしたか。

* 普段と変らぬ様子でした。BBSの青年とも仲良く会話していて、同世代以外の人との接触が上手くできることを確認しました。本人は参加が三度目なので自分から進んで行動できるようになりました。

* 思った以上に積極的かつ集中して活動していたと思います。特に作業においては、本人も話していましたが、とても楽しく活動できた様子でした。またBBSの青年に随分面倒を見てもらいましたが、年齢の近いお兄さんとのふれあいは対象者にとって新鮮な体験であったと思います。

③活動を充実させるための意見

* 対象者の参加増と対象者はBBSのメンバーと交流すれば、もっと明るくなると思います。



庫裏での昼食用意

対象者の感想(原文そのまま)

* 仏具のみがき作業、金にひかるまでみがいたやつが印象に残った。

* 普段外側からしか見なかったの、中に入つての作業は新鮮だった。

* 意外にお寺のそうじも悪くなかったです。

お寺のことが良くわかってうれしかったです。



BBSの感想(抜粋)

* 深大寺の活動への参加は今回で三回目となりました。私自身今年度はBBSの活動にもあまり関与できていませんでしたが、今回参加できて本当に良かったです。BBSとしても対象者との一期一会の出会いをたいせつにしてゆきたいと思っています。来年もまたお声掛け頂けるようBBS活動も頑張つて行ければと思っています。

* 我々BBSに求められているのは、対象者と近い目線に立ち、寄り添ってサポートしてゆくことだと認識しています。その役割を果たせるよう、人員の確保とスキルアップを絶えず図って行ければと考えています。

小さな力の輪

調布保護司会バザー委員

目良 勝子

調布市福祉まつりが十二月一日・二日に開催され調布保護司会は十二月二日のバザーに参加しました。澄み渡る青空のもととは云え、とても寒い一日でした。家族連れの人や高齢の方々、学生の皆さんなど多くの人が訪れました。外国人の方も年々増えてきています。

調布保護司会としては、会員からの新鮮な野菜や切花また沢山の寄付が恒例となり、テントの中に所狭しと並びました。毎年三十名以上の会員の参加協力もあり熱心に販売して、完売いたしました。その日の内に調布市社会福祉協議会に寄付金を届けました。小さな力の輪も毎年の積み重ねによって、広がりを見せて、意識の高まりの一助になっていることと自負しています。会員の皆様にご感謝いたしております。



桐友会だより

調布・狛江地区桐友会

会長 林 貞夫

今年度より会長に選任され、十月三十日に地区桐友会代表者会議に出席いたしました。千代田区から北多摩北まで三十二地区が夫々、会の組織運営と活動状況を報告し、情報交換を行いました。

明けて一月十一日には地区保護司会新年会に出席して恒例の乾杯の発声を務めて、保護司会の皆様と旧交を温めました。

二月二十二日は東京桐友会第二回理事会に出席し、計らずも常任理事を拝命いたしました。これも当地区の輝かしい業績によるものと感謝申し上げます。何れの会議も初めての経験で、大変参考になりました。まずは、地区保護司会との緊密な連絡のもとに、桐友会会員の増強と相互の親睦を図り微力ながら、地域の更生保護の充実発展に貢献したいと思っております。

皆様のご指導とご協力を切にお願いいたします。

更生保護女性会だより

調布狛江地区更生保護女性会

会長 桑田 孝子

「慈愛にみちた更女活動」を掲げ、更女の会長を務め、早四年が経ちました。保護司会をはじめ、各関係団体のご支援、ご協力に感謝し厚く御礼申し上げます。保護司会との協働では、「社会を明るくする運動」、「社会参加活動」が中心となりました。三十四地区会長で構成された東京更生保護女性会の企画、実践ならびに第七ブロック(多摩地区)

での理事会、研修会も地区活動の推進に大変役立ちました。他地区との交流を深めることは、会の運営上とても有効であり、意識の向上が図れました。また、昨秋に行われた保護司会理事との懇談会は、今後の更女活動を進める上で大変参考となり有意義な企画でした。今後とも保護司会との連携をなお一層深め引き続きご支援、ご指導のほど宜しくお願い申し上げます。

BBS会だより

調布・狛江地区BBS会

北谷 慎太郎

今年も深大寺社会参加活動に参加しました。「対象者との関わりは会員の成長にも繋がる。」我々はよくそのようなことを口にしませんが、正直なところ「対象者との会話が純粋に楽しい」というのが本音なのかもしれません。我々が彼らにできることは限られています。少しでも彼らの更生のお手伝いが出ていけるのであれば嬉しく思います。

一方で当地区会の現状は楽観視できません。今年度より社会人の割合が高くなり、活動に支障が出てきています。学生会員獲得は急務です。若い世代に更生保護の大切さを発信していくことも我々の使命だと考えておりますので、会員一人一人がその意識を持ち、今後の活動に当たっていく所存であります。



保護司会と

更生保護女性会との交流会

十一月十三日 地区保護司会理事と地区更生保護女性会役員との交流会を行いました。

土屋地区会長の挨拶に始まり、桑田更女会長が更女の沿革と更生保護女性連盟の事業、また更生保護施設への訪問活動や会員も参加しての見学会について話されました。最近の社会の変化による会員数の減少や活動への理解不足について苦慮しているとのことでした。続いて書記の園田さんと会計の鈴木さんが活動内容の現況について説明されました。

鴨志田副会長は、これまでの保護司会活動への更女の協力に感謝するとともに、今後の連携について話をしました。初めての交流会は、お互いの活動の理解を深める会となりました。(広報部)



更女と保護司会理事

更生保護事業関係者 表彰者

法務大臣表彰

目良 勝子様

全国保護司連盟理事長表彰

原 良男様

関東地方更生保護委員会委員長表彰

金子日出澄様 白川 精次様 杉崎 敏彦様

山本 良子様 須田 啓文様

関東地方保護司連盟会長表彰

加藤 光宏様 國分 牧子様 酒井 淳様

鈴木 宗貴様 谷田部正美様

東京保護観察所所長表彰

峯岸 伴則様 園田 和子様 浅田 靖様

林田 堯瞬様 鈴木 俊一様

東京都保護司会連合会会長表彰

谷田部一之様 内藤 純衣様 長谷 瑞信様

東京保護観察所所長感謝状(家族功労)

目良 新吉様

多摩地区保護司会連絡協議会会長感謝状

長谷 瑞信様 内野陽次郎様 門傳 良男様

佐藤 亜古様 遠藤 好照様 小幡 邦仁様

受彰の皆様

おめでとございます

保護司と学校連携の必要性

調布分区分学校連携推進委員

委員長 岡本 幸次

保護司の仕事は、更生保護だけではなく非行防止や犯罪予防も重要な使命であり、学校との密接な連携が大切なことではないかと思えます。その連携の手段のひとつとして、調布分区分では毎年小学校、中学校の生活指導主任の先生方との懇談会を開催しています。

中学校との連絡協議会では山田保立川支部観察官より事例を出して頂き、それに基づいて意見交換をしたり、各学校の生徒たちの現状を伺いながら、生活指導上の課題について話し合いました。連携しやすい環境づくりの基本は日常の活動であり、具体的な事件がなくても非行防止の観点から重要なことと思われまます。学校行事の入学式、卒業式、体育祭にも参加して学校との交流を深めていけば良いのではないのでしょうか。日頃から学校との連携をとり、非行の芽を摘んでいき、さらには生徒の行っている良い芽を育てていきたいと考え、子どもたちの健やかな育成を目標に効果的な連携がとれるように活動を進めていきたいと思えます。

市立小学校生活指導主任との懇談会

十月十一日 調布市教育会館に於いて実施しました。市内二十校の小学校指導主任の先生と保護司との懇談会を行いました。

市立中学校と保護観察所・保護司との連絡協議会

十一月二十二日 第七中学校に於いて実施しま

した。中学校八校の生活指導主任の先生と各中学校担当の保護司が中学校校区ごとのハグループに分かれて情報交換と事例について話し合いました。

生活指導主任へのアンケート(抜粋)

- *事例をもとに話し合ったが具体的に良かった。
- *地域での拘りが少ないので模索している。
- *地域での生徒の様子を聞くことにより、学校・地域・家庭の各々の役員がスムーズにいこうに心掛けた。地域の情報を頂ければ大変ありがたい。

ハグループ分科会報告

- *今年は中学生の保護観察対象者が一件もない。
- *先生方、特に生活指導主任は、問題ある生徒を担当としてではなくクラブ活動でも見守り協力的ではない親の対応も引き受けていく。大変ストレスの多い立場であることを毎年感じる。
- 問題事例の主役である生徒ばかりに目を向けがちになるが、普通の生徒を見守りながら問題ある生徒に立ち向う、先生方の声を主体に聴く姿勢も必要だと、強く感じる。

*調布全域より通学があるため目配りができないため不安である。

*モンスターペアレンツ的な親と、教師を立ててくれる親とのギャップが大きい。

*いじめの問題もあり、難しい子どもが多い。家庭の教育力の低さが問題。挨拶、返事、授業態度、先生に対する言葉遣い等、初歩的、基本的なところができていない。

*ネグレクト、離婚問題、不登校、万引、発達障害の意見もありました。

(学校連携委員のまとめより)

地区保護司会新年会

一月十一日 調布クレストンホテルにて新年会が開催されました。

井上保護司の司会で和やかに進行し今年度の顕彰を受けられた方にお祝金の贈呈をいたしました。長友調布市長、高橋狛江市長を始め大勢のご来賓の方々もご出席されて当日の参加者は八十三名になりました。



林貞夫桐友会長の乾杯

保護司会の今後の予定

◎観察所主催地域別研修

- 第Ⅰ期 六月十四日
- 第Ⅱ期 十月二十四日
- 第Ⅲ期 二月十九日

◎地区保護司会主催社会参加活動

- 六月 二日 神代農場
- 十一月二十四日 深大寺



◎定期総会

- 四月 十二日 調布分区保護司会
- 四月 十九日 狛江分区保護司会
- 四月 十九日 地区保護司会

◎社会を明るくする運動

- 七月 一日 駅頭広報 調布九駅 狛江駅
- 七月 十五日 調布駅南口広場パネル展 狛江市実施大会
- 七月 二十一日 調布市中学生意見発表会
- 七月 二十七日 中学生サッカー教室
- 七月 五日 多摩地区更生保護事業関係者 顕彰式典

◎東京更生保護事業関係者顕彰式典

- 十一月 二十六日 中野サンプラザ

第六十二回 社会を明るくする運動作文コンテスト

佳作 晃華学園小学校三年 五十嵐 美波

奨励賞 (東京保護観察所長感謝状)

調布市立神代中学校
調布市立第三中学校

受彰の皆様おめでとうございます

あとがき

平成十年十月に調布・狛江保護司会だよりが創刊し、部会制も始まったばかりでした。

広報誌の顔である題字「調布・狛江保護司だより」は当時の深大寺ご住職谷玄昭氏に書いて頂き三十

調布保護司会ホームページ URL : <http://chofu-hogoshikai.sakura.ne.jp>

号になりました。十五号から十七号を除き広報部に在籍して、歴代の脇岡、瀧柳、三沢、内田部長には沢山の教えをいただきました。原稿依頼に始まり誌面構成、編集作業にと、共に汗を流しました。巻頭にご寄稿いただいた方は今号までに十九名を数え、会長以外にも玉稿をいただくことができました。会報とは、記録、予定、新会員紹介や退任ご挨拶、受彰のお祝いも掲載し、また現職保護司としての逝去された方への追悼文は悲しい記事でした。保護司会行事や集会、社会を明るくする運動、関連団体への取材にはカメラ持参で参加しました。振り返ってみると、その時々々の記録誌としての役目を果たしているのではないかと思っています。

発刊後は速やかに会員は勿論のこと、東京保護観察所や立川支部、地域関連団体、学校また他地区保護司会へも、市役所のご協力により配布しています。新任保護司開拓の折にも保護司会の説明に使われています。

広報部の地味な編集作業には副部長二名と協力的な部員のお陰で楽しく行うことができ大変有難く、また原稿をお寄せ頂いた大勢の皆様や内田平和堂印刷所にも感謝を申し上げます。

広報部長 佐藤 恒美

広報(編集)部員

部長 佐藤 恒美	伊藤 知弘
副部長 濱中 佳朗	嶋田 弘子
副部長 酒井 淳	西山 節子
書記 峯岸 伴則	長谷 瑞信
書記 桑田 和紘	林田 堯瞬
会計 佐藤 亜古	真山 勇一
会計 谷田部 正美	谷田部 正美
会計 谷戸 一郎	谷戸 一郎